

はじめに

我が国では、少子高齢化、人口減少による地域の産業やコミュニティの維持をはじめ、国際化による多文化との共存、AIやロボットといった技術革新の進展など、これまでに経験したことがない課題や社会の変化が予想されています。

このため、教育の指針である学習指導要領などが、これまでの学校教育の実践や蓄積を活かしつつ、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するため、特に、幼稚園教育要領においては、「健康な心と体」や、「自立心」、「協同性」等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して改訂されました。

こうした中、国立青少年教育振興機構は、青少年教育のナショナルセンターとして、自然体験や社会体験などの体験活動を通して青少年の自立を組織の使命として掲げ、様々な取組を進めてきました。

近年の研究では、子供たち、とりわけ、幼少期からの体験活動がコミュニケーション力や自己肯定感など、社会を生き抜くため

に必要な資質・能力の獲得に役立つことが明らかになっており、地域や学校等との連携を一層深め、「幼児期に身に付けたい36の基本的な動き」などのプログラムの研究・開発やその普及に取り組んでいます。

国立大雪青少年交流の家でも、平成28年度から「たびうさぎファミリー」を実施し、幼児とその保護者を対象とした体験プログラムの研究・開発に取り組み、この「MORI ASOBI」は、その中間まとめとして作成しました。

写真絵本風に取りまとめていますので、幼児教育関係者の参考にしていただけますとともに、家庭において親子で一緒に御覧いただき、自然の中での体験の楽しさや大事さを共有していただき、当所の御利用はもとより、地域での取組に御活用いただけると幸いです。

国立大雪青少年交流の家

所長 渡部 徹

だるまさんがころんだっ

